

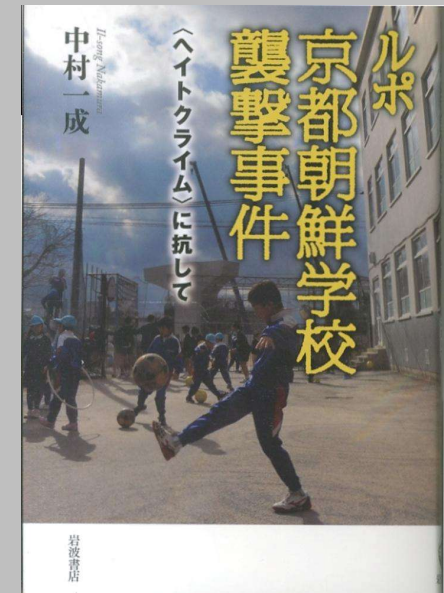
「ルポ 京都朝鮮学校 襲撃事件」
<ヘイトクライム>に抗して

中村一成

210781136 木下小夏

目次

1. 当日
2. 第一初級学校の歴史、変わる状況
3. まとめ



1.当日 ~内容~

- i) 朝鮮学校による公園の使用（校庭代わり）
 - ア. “**在特会**”はこれを「**不法占拠**」であると主張
 - ⇔学校と市と自治体の三者合意あり
 - 同じような日本の学校も存在
 - イ. 公園奪還を目的とした街宣の開始
- ii) 教師による彼らの侵入、罵声の阻止
 - この犯罪行為は刑事事件化へ

1. 当日 ～現場の人々～

i) 襲撃者

- ア.言葉の古さ、語彙の少なさ、非常に断片的 “排除せよ” “潰せ”
- イ.学校側の人間の立場・気持ちを全否定

ii) 学校側、警察

- ア.まっすぐに立ったまま無言で見つめる
- イ.公園の朝礼台・スピーカーの放置
 - “在日朝鮮人には何をやっても大丈夫” というメタメッセージ
 - 警察の不作為を含む街宣の様子が動画に



1. 当日

～襲撃による影響～

- i) **差別街宣問題 = 警察問題** に近づく
(警察の不公正、不適切な職務執行)
- ii) 警察と在特会の見分けがつかない
ア. 在特会の行為を放置
- iii) 3回のデモによる生徒、保護者の洗脳を危惧
- iv) この襲撃を規制するための法律の非存在
→ 父親会代表の法的闘争のスタートに

2. 第一初級学校の歴史、変わる状況

- i) 朝鮮学校とは
 - ア. 朝鮮人が朝鮮人として生きる、「異化」の権利主張の場
 - イ. 朝鮮人に「同化」を強いられてきた裏返し
 - ウ. 学習は祖国への帰還が前提
- ii) 朝鮮人教育の否定
 - GHQ：在日朝鮮人の追放を要求 “忘却したい”
- iii) 日本の法規に従う学校へ
 - ア. 処遇がマシに
 - イ. 日本学校との交流：体験学習からお互いが学ぶものへ

2. 第一初級学校の歴史、変わる状況

- i) 襲撃事件の告訴から8か月後、ようやく**捜査開始**
- ii) 公園の区画区分
 - ア. 占有の抗議に対して“公園の一区画を使っているだけ”と反論
 - but 近隣住民の監視・クレーム続行
 - 地域関係は最悪**
 - イ. 日本の学校も同様に使用

2. 第一初級学校の歴史、変わる状況

iii) 襲撃の中心メンバー4人

→懲役1～2年、いずれも執行猶予4年の有罪判決

iv) 認識の変化

ア. “在特会による犯罪行為”であると公の場で証明

イ. 近隣地域：朝鮮学校に対し“騒動の原因”として認識悪化

ウ. 京都市：傍観者

都市公園法を持ち出し、関わりから逃避

2. 第一初級学校の歴史、変わる状況

- vi) 癒えない傷
 - ア. 法的には一定のけじめ
but 子供たちへのダメージ深刻
 - イ. 在特会、ヘイトスピーチからの逃避



3.まとめ

* 「起こったことは変えられない」

今を闘い、よりましたな今後の創造

→既存の出来事の位置づけの変更可 = 過去の変更可